

2012 年度事業報告

「分かち合う暮らし」—「世界の人びと」と「次の世代」と

第四次3カ年計画に基づいて、上記のテーマのもと、各活動が実施されました。

海外プログラムでは、村の人たちの主体的な活動に地球の木が寄り添い、関わることで地域が少しずつ自立の方向へ進んでいくことに貢献できました。2007年度から始まったカンボジア、ネパールの各プログラムは最初の地域での成果をもとに、次の地域へシフトするための調査を行うことができました。ラオスにおいても、村人の森を守る権利と生活改善のための活動を、継続して支援しました。新規プログラムは検討を行いました、具体化には至っていません。

東日本大震災の復興支援は、海外プログラム同様、気仙沼のNPO法人 Tree Seed を地元の若者たちで立ち上げるための支援ができました。

また、地球の木がよりよい活動を行えるよう、神奈川県支援プログラムを利用し、ビジョンの共有、より効果的な広報ツールの作成、ファンドレイジング、ボランティア受け入れにも取り組みました。これにより認知度が上がり、協力者が増えるという効果を生むことができました。

国内活動では、「持続可能で『豊かな』暮らしのあり方」を考えるため、地球の木講座「ブータンと日本」を開催し、多くの参加者を集めました。地域のイベントで行った活動紹介や出前講座などの広報活動が功を奏し、参加者を次のイベントへの参加につなげることができました。幸せ分かち合いクラフトは、生活クラブや地域のショップ、イベントなどでの販売に力を入れたことにより、クラフトを通じた支援者が増え、地球の木の認知度も高まりました。

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ 海外支援プログラム ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

●ラオス● 村人の森を守る権利と生活改善の応援をする

プログラム名	ラオスの森林と農業プログラム
支 援 地	ラオス サワナケート県 (アサボン郡・ピン郡)
現地パートナー	日本国際ボランティアセンター (JVC) ・ラオス サワナケート県農林局
事 業 費 計	508,036 円

地球の木では、2012年度から第2フェーズに入るJVCラオスの森林と農業プロジェクト(サワナケート県)を支援した。

JVCラオスプロジェクトでは、第2フェーズに入るためのラオス政府との覚書調印が大幅に遅れたため、第1フェーズのフォローアップ中心の活動となった。この間を有効に使うべく、スタッフ研修や新規支援村候補の村(第2フェーズでは第1フェーズの17村から30村へ拡大予定)への視察、調査を行った。既存の対象村で住民参加の土地利用計画を実施し、村人にとって重要な食糧確保手段である焼き畑についての実態調査も行った。また、少数民族であるブルー族の若者たちとの地域ドラマ・ワークショップの実施やイラストカレンダーの配布をおこない、森林と土地に関する法律や権利について、村人の理解を深める活動に取り組んだ。

地球の木が今年度の支援対象としていた大型家畜銀行(水牛・牛)については、実践例の情報収集などの調査が開始された。1頭の単価が高く大きな位置づけを占める活動になることから、次年度の貸し出し実施に向けての準備が慎重に進められた。

■ JVCラオスのプロジェクトの主な実施内容

- ・住民参加の土地利用計画の実施
- ・土地森林に関する権利を伝えるための法律研修や啓発活動
- ・自然資源の管理・環境教育活動
- ・稲作改善や米銀行の設置
- ・井戸の補修・掘削
- ・大型家畜銀行

■ 国内活動

- ・学習会「ラオスってどんな国？」(4/3)と、JVCスタッフのプログラム報告会(6/27)を実施。
- ・カンボジアチームとの共催で学習会「インドシナ半島の歴史を学ぶ」(11/7)を実施。
- ・横浜隼人高校での出前講座「援助する前に考えよう」(7/31)にて、ラオスの事例発表。
- ・「横浜下町パラダイスマつり」(8/26)に出展。森林保全プロジェクトとベトナムへの原発輸出についての展示を行った。

●カンボジア● 手に職をつけ未来へ向かう

プログラム名	クメールシルクプログラム
支 援 地	タケオ州
現地パートナー	VCAO タケオ訓練センター、アン村生産者
事 業 費 計	508,310 円

カンボジアのタケオ州で、貧困層の少女たちが通う VCAO タケオ訓練センター（織物訓練センター）と織物が盛んなアン村の生産者が自立していくための支援を行った。

世界経済の牽引者でもある東南アジアの中で、カンボジアもその例外ではなく、首都プノンペンでは大きなホテルや投機目的のアパート建設、大規模なモールの建設が各所で進み、また、工場の建設も郊外へと広がるなど、めざましい発展を続けている。一方で、都市だけでなく農村地域にも経済至上主義の波が押し寄せ、支援地タケオでも出稼ぎに行く少女たちが後を絶たない。

■ 2012 年度の活動

<VCAO タケオ訓練センター>

訓練センターでは、生活クラブ等の受注もあり、継続して注文生産をおこなうことができた。7年目となる支援で、織物の技術・デザインともに向上し、安定して「売れる物」ができるようになってきている。プノンペンの工場への出稼ぎが増加し、生徒の減少も続いているが、隣接する高校の依頼で、訓練センターの一部屋が高校のミシン教室として使われるようになった。現地在主体となって訓練センターを活用していくようになったことを受け、地球の木の役割も変わりつつある。

<アン村生産者>

生産者のヌンさんを中心に村の状況調査、技術調査をおこないながら、村の人たちとの関係づくりを進めた。その中で生産した自然染色（ラック）のスクーフは生活クラブの発注でも大好評を得た。さらに、生産、調整、連絡を担う体制づくりを進めることが必要である。

■ 国内活動

- ・ギャラリー、地球の木カフェ等でのクメールシルクプログラムの紹介・報告をおこなった。
スペース Nana にて展示・販売 (3/20~24)・報告会 (3/23)、地球の木カフェ (3/29)
- ・ラオスチームとの共催で学習会「インドシナ半島の歴史を学ぶ」(11/7) を実施。
- ・現地訪問ツアー
昨年度好評だった支援者との現地訪問ツアーはスケジュール調整が難しく実施できなかった。

●ネパール● 教育の現場から幸せにつながる地域づくりを

プログラム名	幸せ分かち合いムーブメント
支援地	カブレパランチョーク郡、マンガルタール行政村・カルパチョーク行政村
現地パートナー	SAGUN (サグン)
事業費計	1,056,629 円

教育への機会を阻まれた歴史を持つ少数民族たちが多く住むマンガルタール村で、「幸せ分かち合いムーブメント」を6年間実施してきた。このプログラムは、高校を拠点として、開発のモデルとなるようなプログラムを目指している。今年度は、従来のプログラムに加え、外部の調査員と共に評価をおこない、5年間の活動の成果を確認することができた。マンガルタール村での活動の一部をカルパチョーク村にシフトするため、住民による基礎調査を実施した。

■ 2012 年度の活動

<マンガルタール・SAGUN 協力委員会 (SMCC) >

組織編制を行い、カルパチョーク村のリーダーが委員に加わった。2つの村から3名ずつ、そして2名の女性が委員に選出され、地域の平等性も確保された。

<奨学金>

11、12 年生が各々8名ずつ選ばれた。(成績の優劣ではなく、貧困家庭やマイノリティの出身であることを基準に選考)

<収入創出プログラム >

4つのグループ32名がプログラムに参加し、融資金はきちんと返済された。女性たちは、人前で意見を言うようになり、情報交換の場となっている。

<図書室>

マンガルタール高校の図書室の蔵書は、5,000~6,000冊に増え、1日に10~40人の利用者がある。教科書を買えない生徒たちの助けとなっている。山の上のラジャバス中学校にも図書室ができた。青少年グループが資金を稼いで寄付をするなど自主的な動きがある。

<季刊誌「ロシ・ラハール」>

11~14号が発行され、生徒たちの好評を得ている。

<環境プログラム >

160人の高校生により植林が行われたが、殆どの苗木が山羊に食べられてしまい、場所の設定が課題として残った。

■ 国内活動

- ・5年間の評価調査を実施した。(11/20~12/4)
- ・「ロシ・ラハールを読む会」を2度開催した。(6/18、10/25)

- ・「幸せ分かち合いムーブメント」報告会（3/3）を行った。
- ・SAGUN のカマル・フヤル氏を招聘し、ワークショップ「地域で活かそう！PRA」とネパール料理の会（3/24）を行った。
- ・「持続可能な暮らし」をテーマにしたエコツアーを企画したが、最小催行人数に達しなかったため、実施することができなかった。

■■■■■■■■■■ 緊急支援・国内事業・組織運営 ■■■■■■■■■■

■ 緊急支援

- ・2012年度に引き続き、東日本大震災への復興支援として、これまでの支援パートナーIVY 気仙沼のメンバーが中心となって立ち上げた NPO 法人 Tree Seed へ支援した。Tree Seed が法人格を取得していくための専門家の派遣や事業・マネージメントに関するアドバイス等をおこなった。

■ 相互の自立のための交易事業

- ・イベントやお祭りなどで地球の木の活動を紹介しながら、「幸せ分かち合いクラフト」の販売をおこなった。
- ・「幸せ分かち合いクラフト」のリーフレットを作成し、地球の木のフェアトレードの紹介ツールとした。
- ・「Earth Tree」ネームタグ、ネームラベルを製作し、カンボジアの生産者支援団体と協力して、地球の木オリジナルフェアトレード品の企画生産をおこなった。
- ・生活クラブ（共同購入、デポー）、福祉クラブの協力を得て、販売をおこなった。
- ・クラフト販売に関する販売管理・在庫管理の刷新をおこなった。
- ・クラフト販売に携わる人たちへの勉強会を実施した。

■ 社会教育事業

<出前講座>

- ・出前講座を実施した。中学校3回（3校3クラス）、高校3回（2校3クラス）、地域2回（計8回）
- ・国連大学グローバルセミナー・神奈川セッションでワークショップをおこなった。
- ・地域のイベントなどでワークショップや国際協力の活動紹介をおこなった。
- ・開発教育協会の全国研究集会に参加して、ファシリテーターのレベルアップをおこなった。
- ・新しいワークショップ「未来の食卓」の内部研修会、発表会を実施した。

<地球市民教育>

- ・「あーすフェスタかながわ 2012」に企画から参加した。
- ・「南北アジアと日本のともだち展」実行委員会として絵画展開催に協力し、中国訪問にも参加した。
- ・草郷孝好氏を招き、地球の木講座「ブータンと日本」（2/17）をおこなった。

<たうん（地域）活動>

- ・たうん連絡会を毎月開催し、勉強会や情報交換を活発におこなった。
- ・イベントに参加し、活動をアピールした。
環境と平和を考える DAY(4/28)、鎌倉市市民活動の日フェスタ(5/18~5/20)、大黒まつり(神奈川区孝道山 10/31、11/1)、ひらつか市民活動センターまつり(9/30)、グローバルフェスタ(10/1~2)、かまくら国際交流フェスティバル(10/28)、あーすフェスタかながわ(11/27)、白根地区センター第21回文化祭(11/2~11/4)
- ・学習会を開催した。「ラオスってどんな国」(4/3)、「ネグロスの今を聞く会」(6/28)

<その他販売>

- ・「国際協力カレンダー」の販売をおこなった。生活クラブ生協、福祉クラブ生協の協力を得て 1,000 部を販売した。
 - ・開発教育教材「マジカルバナナv3」の販売をおこなった。
- (2012 年度販売数 本体：66 冊、CD-ROM：34 枚、カード：30 組)

■ 広報活動事業

- ・会報誌を 4 回発行した。
- ・ホームページを更新し、ブログを開始した。(事務局、理事等が月 2 回程度、更新)
- ・Facebook の勉強会を実施、開始準備をおこなった。
- ・地球の木の活動紹介 CM を作成した。
- ・神奈川県「NPO 認知度向上キャンペーン」の対象団体に地球の木が選ばれ、インターネットサイト「かなちゃり」や鉄道 5 路線の全面広告で紹介された。

■ ネットワーク

【理事・運営委員などとして運営に参加する団体】

理 事：横浜 NGO 連絡会 (YNN)、かながわ国際交流財団 (KIF)
 運営委員：フォーラム・アソシエ、かながわ復興支援ネットワーク
 委 員：キララ賞選考委員会、かながわ生き生き市民基金設立準備会
 実行委員：「あーすフェスタかながわ 2012・2013」実行委員会、「南北コリアと日本のともだち展」実行委員会、
 「東日本大震災復興まつり」実行委員会、「市民が作る新しい希望社会」実行委員会
 そ の 他：KOREA こどもキャンペーン (呼びかけ団体)、あーすネット幹事会 (幹事)、東日本大震災復興・支援ネット
 ワーク (生活クラブ)

■ その他事業

<20 周年記念事業>

- ・20 周年記念誌を発行、6 月会報誌と同送した。
- <「ラオス森の絵本 (仮称)」への協力>
- ・ラオスへの現地訪問実施 (10/26~10/31)。ピエンチャン近郊の森を視察し、ラオス人アーティストとの本の合作に向けての調査をおこなった。

■ 組織運営

- ・神奈川県「新しい公共支援事業」構成事業活動基盤強化プログラムに応募し、外部支援組織 「(株)ファンドレックス」にアドバイスを受けながらパワーアップセミナーの実施、実践をおこなった。
- ・理事会の運営についての改善をおこなった。
- ・ボランティアの定期的な説明会を開始した。

地球の木会員数 (2013 年 3 月末日)
正 会 員 : 198 名
サポート会員 : 679 名 (内団体会員 8)
合 計 : 877 名

2012 年度入退会者数と主な退会理由
入会者 : 7 名
退会者 : 26 名 (内団体会員 1)
・活動整理・経済的理由・個人的理由